



あと一步の向上に向けた取組

函館市立亀田中学校

生活習慣・学習習慣の形成 基礎的・基本的な知識・技能の習得 望ましい学習態度の育成 学校組織・指導体制の改善

1 学力向上の具体的な方策

めあてを持ち、学びとる生徒の育成 ～学力向上のための手だてと指導のあり方～

・基礎・基本の確実な定着を図る工夫

・日常の教育活動・実践に生きる研修の推進

- ①学力に応じた指導 ②学習意欲を高める取り組み
③教材開発の取り組み ④授業評価の実施

2 取組の概要

①について

本校では一斉授業における取り組みを中心として、学級集団の機能を生かした実践を行っている。具体的には、「スモールステップ」「ポイントの明確化」「習熟度別ワークシート」「学び方の定着を図る指導」等を単元、授業内容に応じて実践している。

②について

「わかる」「できる」「楽しい」「自分が向上した」の一連の思いを継続した学習・学校生活を送ることができるようにする。そのために、「基礎・基本の徹底」「目標と達成度の明確化」「賞賛・激励」「指導と評価の一体化」のサイクルを念頭に各教科・教師が実践に取り組んでいる。

③について

学力向上に向けてのアプローチの一つとして、教材開発の取り組みを行っている。ただし、ここでいう教材開発は、狭い意味での教材開発ではなく、自身として新しい取り組みをしよう、という約束になっている。「伝言トレーニング」「ブレインストーミング」「板書のパターン化」「予想・実験・考察の時間を十分に取る授業」「グループによる教え合い」「技法をより具体的に、明確に指導する資料の作成」等である。これらをすべて行うのではなく、単元、1時間の授業の中で、指導計画の中に意図的に組み入れていくということである。

④について

今年度も、授業改善及びその検証のために、教師全員が授業評価を実施している。また、全教師が、授業改善のために授業研究（公開授業）を全員が行っている。

※昨年度までの研究の柱の一つであった「学習のスキル」指導の集大成である『勉強法のヒント』については、今年度も改訂を加え、教科開き、テスト前、長期休業前など時機を見ての活用を行っている。

3 成果（○）と課題（●）

○校内研究主題のキーワードを「学力向上」として5年が経過した。過去4年と異なり、本年度は学力向上の取り組みを実施したのにもかかわらず、成果が芳しくなく、「学校評価」や「校内全体研究会」では、【家庭学習が習慣化していない】という指摘も多々見られた。次年度は、これまで以上に学力向上の方策を検討する必要がある。

●本校のような大規模校においては、学力向上と日常の生徒指導は表裏一体といえる。新教育課程完全実施に向け、生徒指導の機能を生かした日常の実践を、今以上に重視していかなければならないと考える。